

「瀬戸内・松山」構想

日本初の国立公園である瀬戸内海。特に、広島と愛媛・松山を結ぶエリアは、「多島美」に代表される島々が織りなす魅力が集まり、風光明媚な風景、そこで育まれた歴史、文化、産業など、多様な資源の宝庫であります。その周囲には、世界遺産「厳島神社」、かつての軍港の面影を残す「呉」、日本最古の名湯「道後温泉」などの日本を代表する観光スポットがあり、国内外の多くの観光客から高い評価を得ています。

松山市が新たな観光戦略として掲げます「瀬戸内・松山」構想とは、こうした瀬戸内海が有する魅力を最大限に引き出し、物語を演出しながら、広島地域の資源と、愛媛・松山の資源を組み合わせ、そして磨き上げ、西日本にニューツーリズムを創造し、提案していくものでございます。

この構想については、広島県が掲げる「瀬戸内海の道構想」とも軌を一にするものとして連携を深めており、また、この構想のもと誕生した新商品は、早速、旅行商品として採用されるなど旅行業界からも期待が寄せられています。

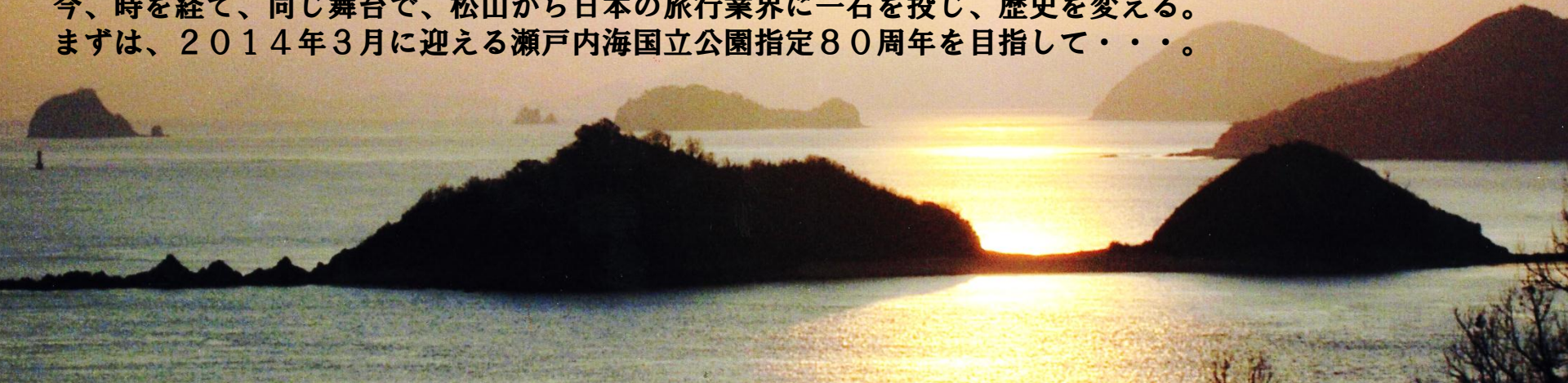
3年間にわたって放送されたスペシャルドラマ「坂の上の雲」は、2011年12月の放送が終了しました。本市出身の主人公たちは、高い「志」を胸に、この「海の道」を旅立ちました。そして秋山真之は、江田島の海軍兵学校で学び、後にバルチック艦隊の撃破という偉大な功績を挙げた彼の戦法は、伊予の水軍戦法を研究したものであります。正岡子規は、この「海の道」をわたり、呉や宮島にも多くの名句を残しています。

その直後の1月からは、瀬戸内海を舞台とする大河ドラマ「平清盛」の放送がスタートしました。瀬戸内海は、伊予の水軍が功績を残した海域としても大きな注目を集め、旅行需要も高まってきます。

激動の明治を切り拓き、生き抜いた主人公たち。

今、時を経て、同じ舞台で、松山から日本の旅行業界に一石を投じ、歴史を変える。

まずは、2014年3月に迎える瀬戸内海国立公園指定80周年を目指して・・・



「瀬戸内・松山」構想

- ・広島地域との連携による「瀬戸内」をテーマとした旅行商品の造成
- ・「広島地域」と「松山」間の2次交通の活性化

